

河川事業実施状況説明資料

◆建設局運営方針の概要

大阪市建設局 局運営の基本的な考え方

安全・安心で快適な市民生活、活力あふれる都市活動を支える都市空間の実現

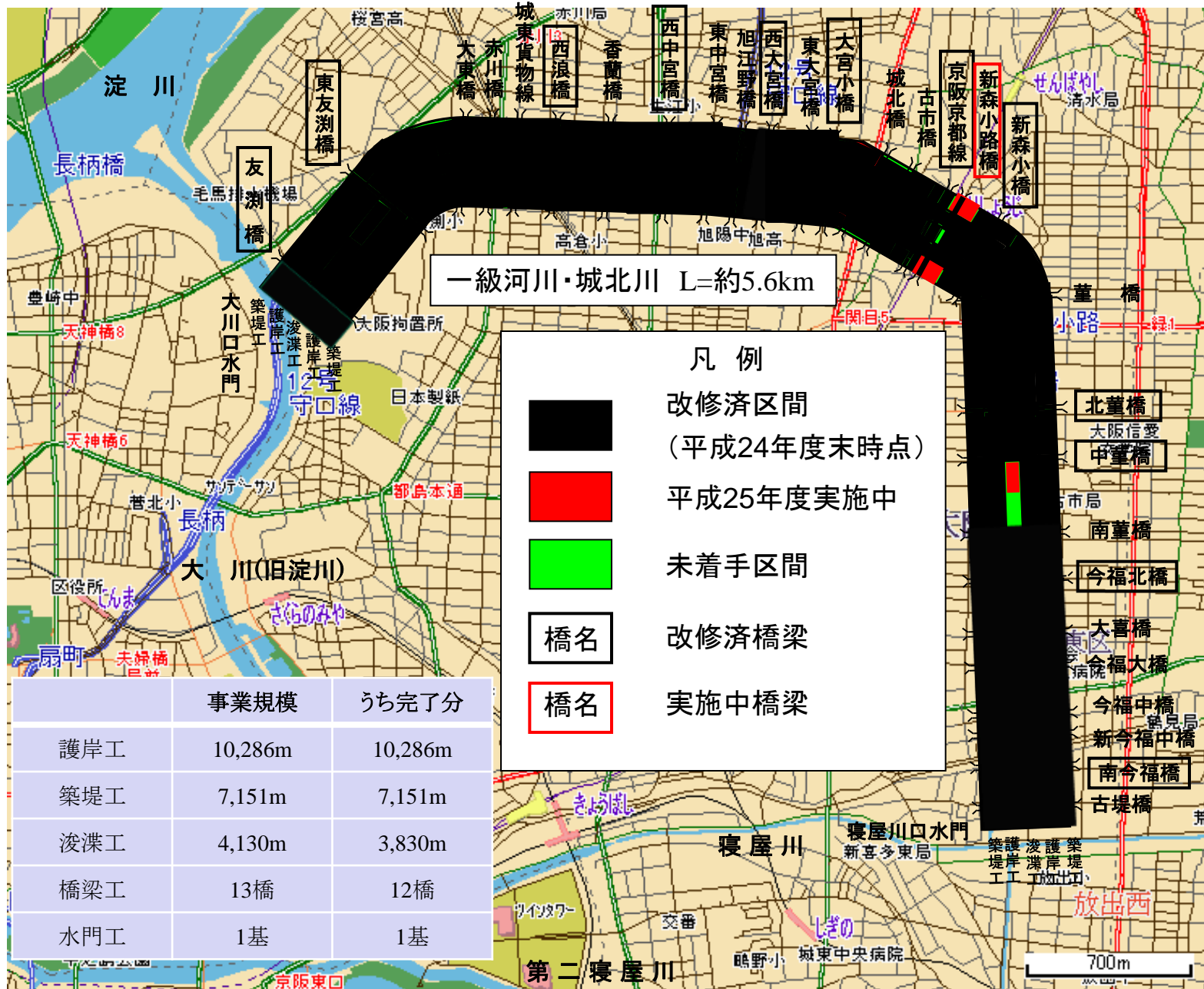
道路・橋梁・河川・下水道・公園に関する膨大な都市基盤施設のストックを適切に維持・管理し、既存施設を効果的・効率的に活用しつつ、社会的ニーズの変化などに対応した機能拡充により都市基盤施設の機能を十分に発揮させるとともに、都市魅力の向上につながる取組みを行う。

- 大阪市では、道路、橋梁、河川、下水道、公園など膨大な量の都市基盤施設を管理しており、かつ、古くから都市化が進んだため、都市基盤施設の高齢化が進んでいる。これらの都市基盤施設は安全・安心な市民生活や都市活動を支える基盤であるため、市民生活に密着して機動的に対応する区と併せて、計画的な管理を行い、効果的・効率的に活用すると共に、その機能を着実に維持。
- 安全・安心の喫緊の課題として、近年多発している集中豪雨への対応を強化するための地域特性にあった局地的な浸水対策の実施、全国的に登下校中の児童等に自動車が入り込む事故が相次いでおり、通学路の安全確保や交通事故抑止に向けた取組みを推進する。

◆河川事業(治水)の大阪市の全体計画の中での位置付け

- 本事業は治水対策事業であり、大阪市の全体計画においては、
 - グランドデザイン大阪:「安全・安心都市の実現に向けて」・・・風水害などの被害最小化(減災対策)
 - 大阪市総合計画2006-2015:「政策目標27 自然災害に対する安全性を高める」
 - －浸水被害の抑制・・・治水対策の推進といった位置付けがなされている。

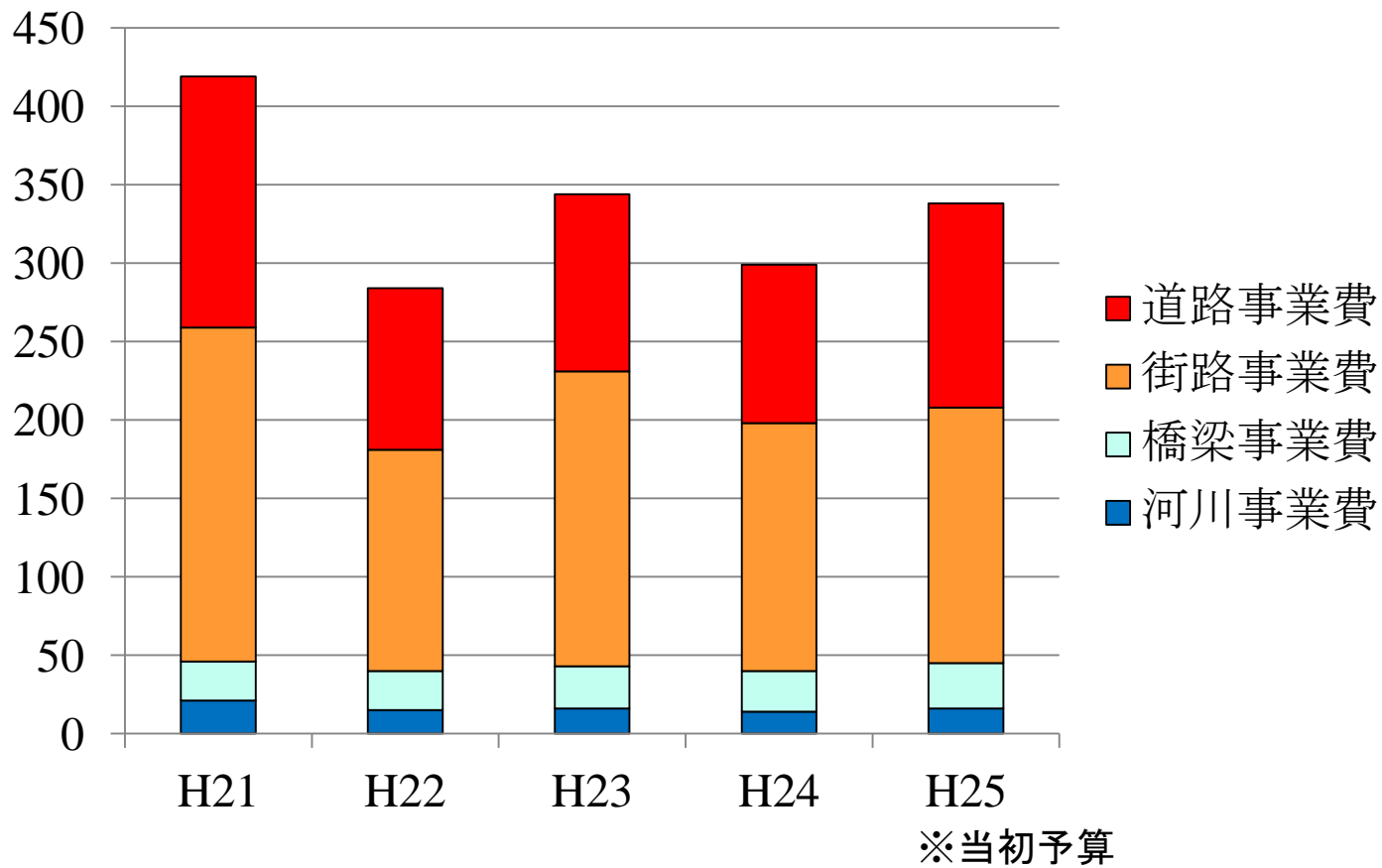
事業概要・事業箇所図



建設局事業費の推移

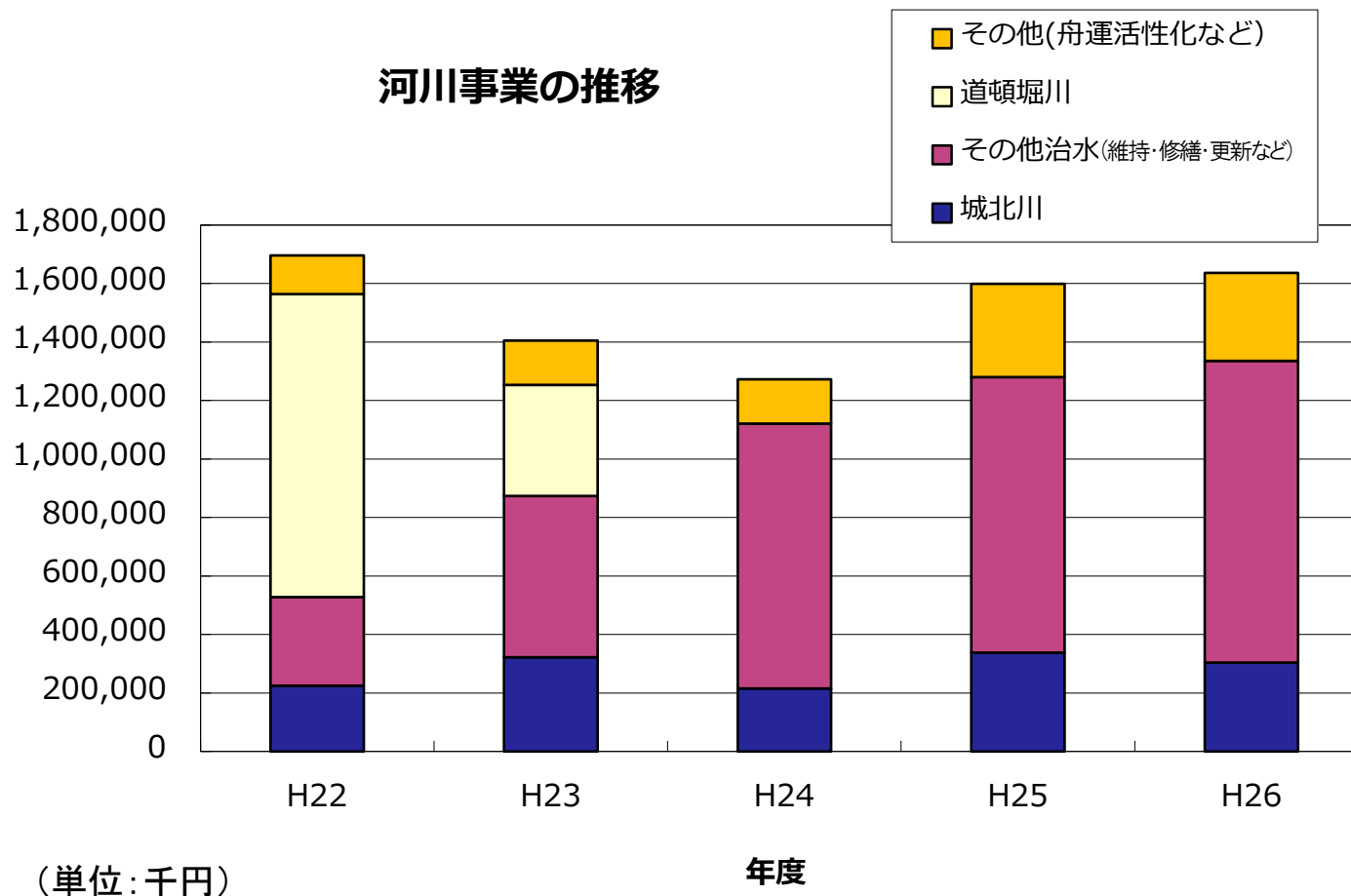
市の財政状況が厳しくなる中、平成25年度予算で河川事業費は16億円であり、平成21年度決算と比較するとそれぞれ約76%となっている。

建設局決算の推移(億円)



河川事業費の推移

河川事業については、道頓堀川水辺整備事業の完了に伴い、平成24年度以降は治水対策事業に財源を投入し、城北川においても着実に進めている状況である。



選択と集中の考え方等

局運営方針に照らした事業の位置づけ

大阪市建設局 目的と使命

安全・安心で快適な市民生活、活力あふれる都市活動を支える都市空間の実現

道路・橋梁・河川・下水道・公園に関する膨大な都市基盤施設のストックを適切に維持・管理し、既存施設を効果的・効率的に活用しつつ、社会的ニーズの変化などに対応した機能拡充により都市基盤施設の機能を十分に発揮させるとともに、都市魅力の向上につながる取組みを行う。



経営課題(事業の選択と集中の考え方)

経営課題2 社会的ニーズの変化などに対応できる都市基盤施設の機能拡充

【都市基盤施設の風水害対策】

・大都市特有のゲリラ豪雨等の都市型水害などの風水害対策を推進する。

※城北川改修事業については、大阪府の治水計画の見直しに伴い、寝屋川流域の総合治水対策において設定する『当面の治水目標』を達成するために事業を進めていくが、そのために必要な事業については、平成27年度に完成予定であることから、平成25年度建設局運営方針への位置づけは行われていない。



- 『当面の治水目標』達成に必要な事業が、平成27年度に完成予定であることから、重点的に事業を進めていく。

実施中事業一覧(河川事業)

| 事業名 | 全体 事業費 (百万円) | 進捗率 | 完了 予定 年度 | 備考 (優先度関連事項等) | 重 点 | 実施状況・予定 | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|--------------------|-----|----------------|-------------------|--------|---------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|--|--|--|--|--|
| | | | | | | 21 | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | | | | | |
| 城北川改修事業 | 47,200 (54,000) | 96% | H27 | 河川整備計画の位置付け 有り | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | ● | | | | | | | | |

※()は前回評価時の総事業費

※現在実施中の建設事業(維持・修繕・更新事業除く)は城北川改修事業のみ